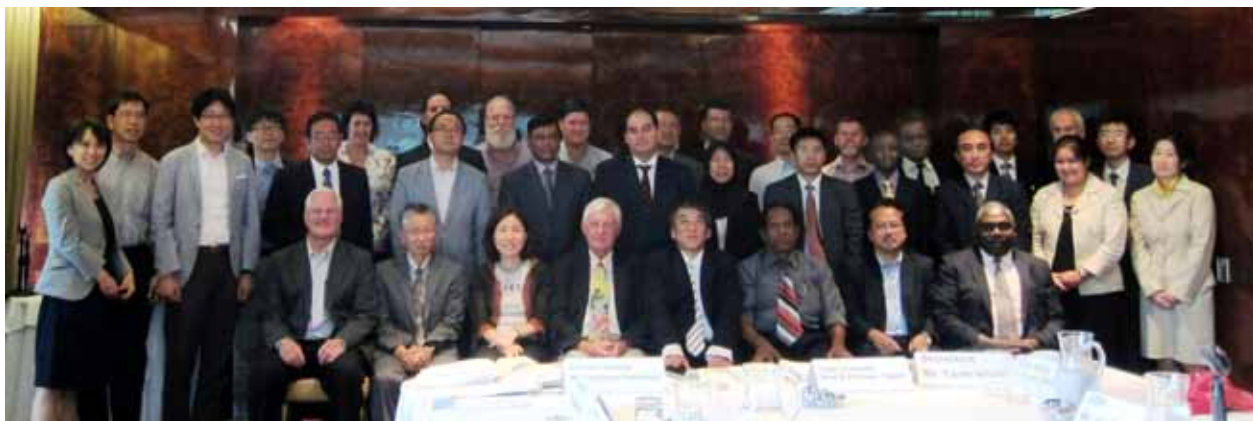




# GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 67

## 第19回地球地図国際運営委員会会合報告

地球地図国際運営委員会事務局



平成24年8月12日に、米国ニューヨークにおいて、第19回地球地図国際運営委員会（ISCGM）会合が開催されました。同会合には、委員、国家地図作成機関の代表等41名が参加しました。

本会合において事務局は、地球地図データ第2版作成を促進するために開発したデータ検証ソフトや多言語マニュアルについて、また、国連持続可能な開発会議リオ+20において、成果文書に地球地図の重要性が明記されたことや地球地図セミナーを開催したことについて報告しました。

ワーキンググループ2は、ラスターデータの高分解像度化のための仕様改訂を提案し、地球地図仕様第2.2版として採択されました。また、地球地図データの利用の促進及び地球地図第3版の仕様を検討するために行われたユーザーアンケー

トの調査結果について報告しました。ワーキンググループ4は地球地図第2版の全球版（土地被覆及び樹木被覆率）のデータ整備の進捗について報告し、トレーニングデータ作成への各国の協力に対し感謝が述べられるとともに、今後のデータ検証への協力依頼がなされました。

本会合での議論の結果、各国の国家地図作成機関とISCGM事務局が共同でデータの位置精度向上の取組を進めていくこと、地球地図第3版の効率的な整備のため、仕様改訂を進めていくことになりました。

また、第19回会合の翌日に行われた第二回地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UNCE-GGIM）会合で議題のひとつに挙がっている持続可能な開発のための地球地図について、意見交換をしました。

## 国連持続可能な開発会議（リオ+20）

岸本紀子

国土地理院応用地理部応用地図課長補佐

6月20日から22日に、国連持続可能な開発会議（リオ+20）がブラジル・リオデジャネイロで開催されました。この会議は、1992年に同地で開催された国連環境開発会議（地球サミット）から20年後のフォローアップを行い、持続可能な開発の実現のため、今後10年の経済、社会、環境のあり方を議論するものです。

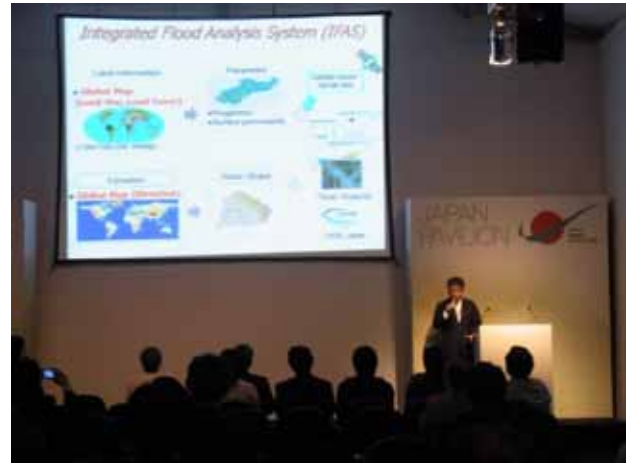
地球サミットは、気候変動枠組条約や生物多様性条約が署名のために開放され、今日に至る持続可能な開発の考え方に大きな影響を与えた会議です。地球地図プロジェクトは、同サミットをきっかけに我が国が提案したものです。

会議には、国連加盟188か国の政府代表団等から約3万人が参加しました。日本政府代表団は、玄葉光一郎外務大臣を団長として、外務省、国土交通省等の130名から成り、国土地理院からは福島応用地理部長（地球地図国際運営委員会事務局長）と岸本の2名が参加しました。

22日に採択された成果文書『我々の求める未来』には、「信頼性のある地理空間情報」と「地球地図」の重要性が記載されました。具体的には、「技術」の段落において、「我々は、持続可能な開発の政策決定、計画作成及びプロジェクト運営のために、・・・信頼性のある地理空間情報の重要性を認識する。このような文脈において、地球地図の関連性に留意する・・・」とされています。

6月22日には、日本パビリオン（13日から24日まで）において、国土交通省主催の「持続可能な開発のための地球地図及び総合的な水資源管理」と題したセミナーを開催しました。冒頭の前田国土交通省国際統括官の挨拶に続き、国土地理院から地球地図プロジェクトの概要及び持続可能な開発への活用事例に関する発表を行いました。続いて、バネッサ・ローレンス英国陸地測量部長、ブラジル地理統計院地理情報・統計技

術専門家ルシアナ・マラ・テンポニ・デオリベラ博士及びJAXA理事本間正修博士より、地球地図の取組、活用及び地理空間情報や地球観測の重要性について発表がありました。



セミナーにおける福島応用地理部長の発表

また、国土地理院では、日本パビリオンの全球地球観測システム(GEOSS)展示ブースにおいて、地球地図に関するパネル展示とレクチャーを実施しました。



リオ+20 全体会合の様子

国家地図作成機関は、リオ+20の成果を踏まえ、今後「我々の求める未来」を構築するため、信頼性のある地理空間情報である地球地図の整備をさらに推進するよう求められます。

## 地球規模の地理空間情報管理（GGIM）に関する国連専門家委員会会合報告

河瀬 和重  
国土地理院企画部国際課長

8月13日～15日にかけて、地球規模の地理空間情報管理（GGIM）に関する国連専門家委員会の第2回会合が米国ニューヨーク市の国際連合本部会議場で開催されました。同委員会は、昨年7月27日に開催された国連経済社会理事会において設置が採択されたばかりの委員会で、今回は第2回目の会合となり、国家地図作成機関代表者等から46カ国約150名の参加があり、国土地理院からは福島応用地理部長、松坂国際観測企画官ほか2名が出席しました。D. R. フレイザー・テイラー委員長が地球地図国際運営委員会（ISCGM）を代表し出席しました。

会議の冒頭、Wu Hongbo（呉紅波）国連経済社会担当事務次長の挨拶の後、議長選出・議題及び運営要領等の採択・承認等を経て、地理空間情報管理の動向に係る5～10年後の展望に関する戦略的考察、リオ+20に関する本委員会の貢献の総括等、11に上る議題が議論されました。

我が国からは、地球規模の測地基準系に関して、松坂国際観測企画官がPCGIAP（アジア太平洋GIS基盤常置委員会）の測地基準系のWG座長としてアジア太平洋地域における取組状況について報告し、各加盟国における測地基準系の維持管理の重要性を改めて喚起するとともに、各国の測地基準系の採用状況についての調査を提案し、国連GGIM事務局が調査票を送付することなどが採択されました。

また、リオ+20に関する本委員会の貢献の総括においては、我が国がリオ+20の成果文書に信頼できる地理空間情報や地球地図の重要性を盛り込む努力をしたこと、各国においても地球規模の地理空間情報管理の政策につながる活動を進めていく重要性について発言しました。

さらに、持続可能な開発のための地球地図構想については、福島応用地理部長からこれまで我が国が中心となり世界各国の地図作成機関が取り組んできた地球地図の取組について紹介するとともに、提案のあった構想についてはこれまでの地球地図の取組の経験を生かして主導的に議論を取りまとめていく用意がある旨発言しました。テイラー委員長はISCGM委員長として、地球地図整備の経験をもとに、貴重なコメントを述べました。



地球地図の取組状況について発表を行う  
国土地理院福島応用地理部長

これを受け、本委員会の取りまとめ文書には、既存の地球地図の取組の大きいなる達成について認識しつつ、持続可能な開発のための地球地図構想を推進する運営委員会を設立し、ユーザーニーズや応用分野などを調査し、来年2月にカタールで開催されるハイレベルフォーラムにおいて中間報告を行う旨が採択されました。

次回第3回の国連専門家委員会会合は来年の7月24日～26日に英国ケンブリッジにおいて開催予定です。

国土地理院では、我が国の地理空間情報に関する権威機関として、国連が主導する地球規模の地理空間情報管理に関して積極的に参画し、今後も必要な対応をしていきます。

## 地球地図マリ第2版の公開

アンド・エンコ・グインドゥ  
マリ地理院長



筆者

マリ地理院 (IGM) は国土の地図作成の責任を持つ国家機関です。IGMは現在、基盤・運輸・住宅・都市省の監督下にあります。本院は公共行政機関の旧国家地図・地形局を2000年2月10日の政令第00-009号で立て直し、2000年7月6日の法令第0033号で承認を受け設立され、マリの国土の地理情報に関する国家政策の整備への参加、実施及び監視を目的としています。

地理情報のための国家政策 (PNIG) は2012年1月にマリ政府により採択されました。この政策は、すべてに共通の幾何学的レポジトリの地形図の作成を行う一方で、地理情報の作成の標準化、管理及び普及を目的としています。

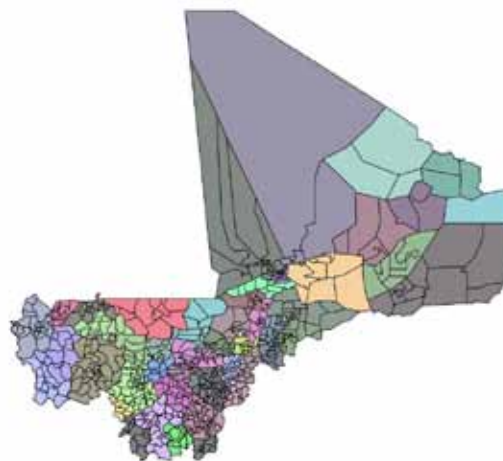
### 地球地図マリ第2版：

マリの地球地図への参加は、我々の日本の友人を通し、運営委員会事務局から要請されました。彼らは縮尺100万分1のデータを要求しました。しかし、この縮尺で存在する shape file のベクターデータは、北緯16度のマリの北部3地域のみで、国の南部地域のデータの縮尺は50万分1でした。両方の資料はあわせて、確かに均一な資料ではありませんが、空白を埋める役に立ちます。その結果、2012年5月10日付けで、マリは地球地図第2版の参加国のリストに掲載されました。マリのデータは ISCGM ウェブサイトのダウンロードページ (<http://www.iscgm.org/gmd/download>) に記載されたデータポリシー文書で述べられる条件で（農業、運輸、遠隔通信、

保健、水、教育、研究、災害、エネルギー、国家安全保障、社会経済、天然資源、生物多様性、生態系等）多くの分野で利用可能です。

### 地球地図マリの展望：

その他のレイヤも、後日、現在利用できるレイヤに追加されるでしょう。マリのこのようなデータの品質向上は、現在 IGM で新たに上げられている展望の実現と実施により達成できるでしょう。実際に、欧州連合の支援により、マリは1:200 000の基本図の再構築作業とIGMの近代化に着手しました。このプロジェクトは2012年10月に開始する予定です。このプロジェクトにより、IGMは、縮尺100万分1の一般化された均一な地図作成を含む革新的な成果物とサービスを手に入れるでしょう。他の側面では、JICAも縮尺5千分1のパマコ地区のGIS構築のために、マリへの支援作業を行っています。今後、マリの他の主要な市を整備する計画があり、さらに国土の1:50 000の地図の整備の改善を図る予定です。これにより我々の空間参照のための基盤データセットが充実します。IGMの近代化により、インターネット (geo-metadata digital broadcaster) 経由で既存のデータセットの記述的な資料が提供できるようになるでしょう。



地球地図マリ：行政界レーヤ

## 2012年度 JICA 集団研修環境地図（地球地図）作成コース

ダモダル・ダカル  
国家地理情報基盤プロジェクト測量官  
ネパール測量局



閉校式終了後国土地理院にて（筆者：右から3人目）

人間は、最も思慮深く、知的で、好奇心があり、適合性をもつ社会の構成要素です。これらの特性のため、人間は新しいことを知り、初めての場所を訪れ、新しい考え方を探求しようと試みます。人間は自己の活動や思考を一定の地理的範囲内に制限することはできません。

すべての人々は上で述べた特性の影響を受けているため、新しいことを知り、知らない土地を訪ね、初めての国や土地の文化や社会学的構造、新しい技術や科学の傾向を知るよう試みます。すべての人々はこれらの欲望を満足させるよう試みているわけです。

2012年5月に日本で「環境地図（地球地図作成）」研修コースが行われ、5カ国の7名が地球地図の技術知識を学習し、日本の地理や文化的な知識を得るために地理上の国境を越えました。彼らはJICA研修コースの研修員として来日しました。7名の内訳はラオスとネパールが2名、タイ、セルビアとセネガルはそれぞれ1名でした。この研修は2012年5月14日に始まり、2012年8月

2日まで行われました。研修の場所は国土地理院でした。ほとんどの研修員は自国の国家地図作成機関の職員で、GISとリモートセンシングの専門家です。この研修の主な目的は地球地図第2版を予定どおりに完成させることでした。

私たちは、素晴らしい運営、技術支援と協調的な環境のなかで研修を受けることができました。これは、国土地理院やJICA筑波のスタッフ全員の激務の賜物です。地球地図の知識を習得し、地図作成技術と知識を向上させるために、優れた、技術力の高い経験豊富な講師とアドバイザーを得ました。

専門知識や地図作成の新しい技術のほかに、私たちは日本の歴史的な地域や自然が美しい場所を訪れる機会を得ました。この訪問は、私たちがこれらの場所の地理、歴史や社会学的な側面を知る機会となりました。また、測量・地図作成技術や手順を相互に理解、共有し、交換するために、日本の測量・地図作成に関わる国立や民間の機関を訪問する機会も得ました。

同僚の研修員を代表し、研修コースが成功裏に終了することを全面的に支援して下さった日本政府、国際協力機構 (JICA) と国土交通省に感謝し、国際建設技術協会と国土地理院の有形の大変な努力と講義、ワークショップや研修旅行の円滑で首尾の良い進行に感謝し、つくば国際センター (TBIC) の心温まる宿泊と、私たちのあらゆる心配事への思いやりのある支援に感謝します。

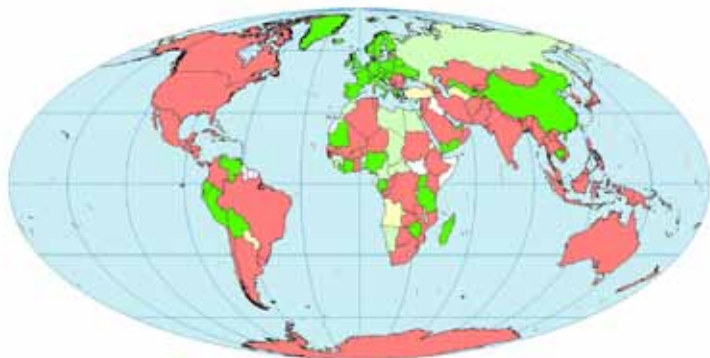
最後に、私たちの技術アドバイザーの高橋さん、北浦さん、植田さんと、JICA コーディネーターの湯原さんと舘さん、IDI のコーディネーターの阿部さん、JICA の担当者の田中さんの忍耐と継続的な支援に心から感謝の意を表します。研修期間は非常に短かったものの、これは私たちの人生で特筆する思い出になることと思います。

## 事務局から

### 地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2012年 6月 25日に前回のニューズレターが発行されて以降、ヨルダン（8月 22日）、パキスタン（8月 31日）及びブラジル（9月 10日）の地球地図（いずれも Ver.2）が公開されました。

現在 166カ国 / 16地域が地球地図プロジェクトに参加し、76カ国 / 5地域（うち Ver.2を公開しているのは 12カ国 / 1地域）の地球地図が公開されています。



- データ公開中
- データ検証中
- データ作成中
- プロジェクト参加を検討中
- プロジェクト未参加

本図は参考のために作成したものであり、国境についてはいかなる組織によっても公認されたものではありません。

## 地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

### 2012年

- ・ 10月 29日～ 11月 1日、バンコク、タイ  
第 19 回国連アジア太平洋地域地図会議
- ・ 11月 22日～ 11月 23日  
フォス・ド・イグアス、ブラジル  
第 9 回地球観測に関する政府間会合

- ・ 12月 11日～ 12月 12日  
ジッダ、サウジアラビア  
ISO/TC211 地理情報専門委員会第 35 回総会

### 2013年

- ・ 2月 4日～ 6日、ドーハ、カタール  
国連地球規模の地理空間情報管理に関する  
第 2 回ハイレベルフォーラム



NEWSLETTER は地球地図情報紙として、世界中の国家地図作成機関や地球地図データ利用者など 1,200 名以上もの多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。

編集・発行： 地球地図国際運営委員会事務局  
連絡先： 〒305 - 0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内  
Tel: 029 - 864 - 6910 Fax: 029 - 864 - 8087  
ホームページ: <http://www.iscgm.org/>  
E-mail: [sec@iscgm.org](mailto:sec@iscgm.org)